

ケースを通して考える学生対応

清水 栄子(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授)

講師略歴

専門は高等教育、アカデミック・アドバイジング、学習支援、教職員能力開発。広島大学教育研究科人間科学専攻博士課程修了(博士(教育学))。国立高等専門学校法人阿南工業高等専門学校 FD 高度化推進室特命講師、愛媛大学教育企画室助教、講師、追手門学院大学共通教育機構准教授などを経て、2024年4月より現職。日本アカデミック・アドバイジング協会(JAAA)会長。著書に『大学の学習支援 Q&A』(共編著)、『アカデミック・アドバイジングーその専門性と実践ー日本の大学へのアメリカの示唆』(単著)がある。

プログラム概要

大学に入学してから卒業するまでの間、学生は学習・生活・進路など、さまざまな課題や悩みに直面します。近年の全国調査では、大学生活において教員からの指導や支援を望む学生や、個別面談を希望する学生の割合が増加していることが報告されています。一方で、実際に教職員と接触する機会はそれほど多くないという現状も明らかになっており、そのような中でどのように学生対応を行えばよいのか、戸惑いを感じている教職員も少なくありません。

本プログラムでは、主に個別面談の場面を想定しながら、学生対応における基本的な視点や留意点について解説します。そのうえで、実際の事例を参考にしたシナリオ型ケースを用いたグループおよび全体でのディスカッションを通じて、参加者同士の経験や対応方針を共有し、多様な学生対応の在り方について理解を深めるとともに、ご自身の対応を振り返る機会としたいと考えています。

準備物・事前課題

学生対応のケースを検討するにあたり、ご自身の経験をもとに意見を出し合う場面があります。これまでに関わった学生との面談や相談対応について、簡単に説明できるようにしておいてください(詳細な記録や資料の準備は不要です)。

主な受講対象者

・学生との個別面談や相談対応に関わる教職員(例:クラス担任、学生支援、教務、キャリア支援などの担当部署の職員)

到達目標

1. 学生対応における基本的な視点と留意点を説明できる。
2. 実際のケースを通じて、適切な対応を提案できる。
3. 他者の視点や対応方針を共有し、自身の学生対応力を振り返ることができる。